

第 61 回国立大学図書館協会総会 研究集会
平成 25 年度国立大学図書館協会海外派遣事業(短期)報告 サマリー

フィンランドの大学図書館における学習支援
「大学図書館をつなぐ情報リテラシー教育」

室蘭工業大学
千葉 浩之

フィンランドの大学図書館における情報リテラシー教育について、学内外とのつながりを中心に報告する。

オウル大学には **Toolbox of Research** という研究者支援 Wiki がある。これは、研究者に対して情報リテラシー教育を提供したい図書館が学内の関係部署に働きかけて実現したものであり、図書館だけではフォローできない部分までカバーしている。また、ヘルシンキ大学図書館は情報リテラシー教育の一環として、データマネジメント教育を開始した。データマネジメントは研究活動の基礎でありながら、それを教える機会がなかったとのことで、空白を埋める取り組みと言える。

フィンランドの大学図書館は情報リテラシー・ネットワークを形成している。ボローニャ宣言により始まった大学改革のなかで、2004 年に同ネットワークは情報リテラシー教育をカリキュラムに含めるよう求める提言を発表した。この提言は大学への要望というだけでなく、情報リテラシー教育を担う大学図書館職員にガイドラインや共通認識を与えるものである。さらに、2013 年に同ネットワークは **EMPATIC** (欧州委員会の生涯学習プログラムに属するプロジェクト) が欧州の高等教育部門に対して行った勧告をもとに、情報リテラシー教育の一層の充実を求めて、上述の提言に改訂を加えている。

同ネットワークの取りまとめ役を務める **Leena Järveläinen** 氏は、今後は教材を共有する仕組みを構築したいと話していた。教材を共有する仕組みは、大学の数はもとより(異動により)情報リテラシー教育に携わる職員の数も多い日本においてこそ有効と思われる。また、上述の提言とその改訂は高等教育改革の流れを捉えたものであった。日本の大学図書館も高等教育改革の機運を逃さず、資料の提供という面のみならず情報リテラシー教育の面でも連携・協力を模索することが重要であり、それにより大学教育とより密接につながるができると思われる。